iThenticate

研究活動における盗用・剽窃の種類

盗用・剽窃と研究の帰属を理解する

不注意

1 二次資料の不正利用

別名：不適切な引用

頻度 6.9/10

メタ研究などの二次資料を自分の研究で活用しているにもかかわらず、二次資料のなかで示されている一次資料のみを引用して、二次資料に言及しない場合、二次資料の不正利用となります。これは、二次資料の著者の成果を明記しないだけでなく、その研究に費やされた研究の量についても誤った印象を与えてしまいます。

2 妥当性に欠く資料の利用

別名：誤解をまねく引用、ねつ造、改ざん

頻度 3.9/10

不正確な資料や存在しない資料を用いた場合、妥当性に欠く資料の利用となります。これは意図的な不正行為でなく、ずさんな研究の結果として引き起こされることがあります。参考文献の分量をかさ増しして研究の不備を隠すために起こることもあります。

3 二重投稿・二重出版

別名：自己盗用・自己剽窃、再利用

頻度 6.3/10

二重投稿・二重出版とは、過去の自分の研究や論文について、初出情報を示さずに再利用することです。この行為に関しては倫理的な議論が盛んで、多くの場合、重複する内容に左右されます。

4 言い換え

別名：盗用・剽窃、知的窃取

頻度 7.5/10

他者の文章について、その帰属を示さずに単語や表現を換えることで、実際には他者のアイデアや研究の一部であるにもかかわらず、自分のものと見えるように発表することです。言葉の単純な置き換えから、独自のアイデアや概念を保ったまま文章を完全に書き換える行為まで、幅広く含まれます。

5 研究の重複

別名：自己盗用・自己剽窃、再利用

頻度 7.1/10

類似の研究手法で行われた過去の研究データや文章を、適切な帰属を示さずに新たな研究で繰り返し使用することを指します。よくある例として、関連するテーマについて複数回研究を行って類似の結果を得たが、先行の研究成果を適切に引用していない場合、剽窃行為と見なされます。

6 複製

別名：論文投稿の違反

頻度 4.2/10

一つの論文を複数の学術誌に投稿して、同一の論文を複数回出版する行為を指します。とくに、研究者がすでに出版されている論文を、新たな論文であると主張する場合は、倫理的な違反となります。

7 誤解をまねく帰属表示

別名：不適切なオーサーシップ

頻度 4.8/10

論文に寄与した著者のリストが不適切か不完全であることを指します。当該の研究に対して部分的あるいは重要な貢献をした著者がクレジットを拒んだ場合(ゴースト・オーサーシップ)や、あるいはその逆で、まったく研究に貢献していないのに著者として名を連ねる場合(ギフト・オーサーシップ)が、これにあたります。

8 共同研究の倫理違反

別名：不適切なオーサーシップ

頻度 5.3/10

共同研究者による行動規範の逸脱を指します。共同研究の結果として得られた文章や成果、アイデアについて、当該研究の共同的な性質や他の共同研究者に言及せずに発表することは研究倫理に反します。適切な帰属を示さずに他者の成果を利用することは盗用・剽窃と見なされます。

9 コピペ盗用・剽窃

別名：コピー＆ペースト、知的窃取

頻度 2.3/10

他者の言葉や研究成果の出典を明示せず、あるいは引用符やインデントの使用をせずに、そのまま書き写すことを指します。このタイプの盗用・剽窃には、出典を明示しているけど直接引用であることを示さない場合と、帰属を一切示さずに、他者の言葉を自分の言葉として発表する場合の二通りがあります。

10 完全な盗用・剽窃

別名：知的窃取、盗作

頻度 2.3/10

他の研究者の研究や原稿、その他の研究成果を、自分の名前で投稿する、極めて悪質な盗用・剽窃行為を指します。

意図的

 | ©2022 Turnitin, LLC. All rights reserved.

IT_GL_TypesOfResearch_Plagiarism_Infographic_A4__JP_0322